

執筆者略歴

川島 真（かわしま しん）

東京大学大学院総合文化研究科教授、博士（文学・東京大学）

北海道大学法学部助教授、東京大学院総合文化研究科准教授を経て現職。

専門は中国・台湾の政治外交史、東アジア国際関係史。現在、世界平和研究所上席研究員、日本学術会議連携会員などを兼任。

著作に『中国のフロンティア - 揺れ動く境界から考える』岩波新書、2017年、『21世紀「中華」 - 習近平中国と東アジア』中央公論社、2016年などがある。

石津 朋之（いしづ ともゆき）

防衛研究所戦史研究センター長

獨協大学およびロンドン大学 ICC 卒業。ロンドン大学 SOAS 大学院修了（修士）、同 KCL 大学院修了（修士）。ロンドン大学 LSE 博士課程中退、オックスフォード大学大学院研究科修了。

ロンドン大学 KCL 名誉客員研究員、英国王立防衛安保問題研究所(RUSI) 研究員、シンガポール国立大学客員教授を歴任。

防衛研究所助手、主任研究官、第1戦史研究室長、国際紛争史研究室長などを経て2018年から現職。

著作に『総力戦としての第二次世界大戦』単著、中央公論新社、2020年、『リデルハート』単著、中公文庫、2020年、『地政学原論』共編著、日本経済新聞出版社、2020年などがある。

道下 徳成（みちした なるしげ）

政策研究大学院大学副学長・教授。筑波大学第三学群国際関係学類卒業、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）修士課程修了（国際関係学・国際経済学）、同大学博士課程修了（国際関係学）。内閣官房副長官補付参事官補佐、防衛省防衛研究所主任研究官などを歴任。専門は安全保障論、日本の安全保障・外交政策。

著書に *Lessons of the Cold War in the Pacific: U.S. Maritime Strategy, Crisis Prevention, and Japan's Role*, Woodrow Wilson Center, 2016 (co-authored with Peter M. Swartz and David F. Winkler) および『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年がある。

平田 英俊（ひらた ひでとし）

幹部学校航空研究センター客員研究員（元空将）

東京大学工学部卒業。同大学院修士課程修了（航空宇宙工学修士）。スタンフォード大学博士課程修了（航空宇宙工学博士）。米国防総省国防大学修了（国家資源戦略修士）。航空幕僚監部防衛部防衛課防衛調整官、同防衛部防衛課長、同防衛部長、南西航空混成団司令（当時）、航空自衛隊幹部学校長、航空教育集団司令官などを歴任。

福田 潤一（ふくだ じゅんいち）

笹川平和財団 日米・安保事業ユニット 安全保障研究グループ研究員

幹部学校航空研究センター客員研究員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。外務省国際情報統括官組織専門分析員（米国の安全保障担当）、笹川平和財団事業部研究員（日米同盟事業担当）、世界平和研究所（現・中曽根康弘世界平和研究所）研究員、法政大学大学院法学研究科兼任講師などを経て現職。

専門は国際関係理論、安全保障論、米国外交・安全保障政策。

著作に“A Japanese Perspective on the Role of the U.S.-Japan Alliance in Deterring – or, If necessary, Defeating - Maritime Gray Zone Coercion,” in Scott W. Harold, et al., *The U.S. -Japan Alliance and Deterring Gray Zone Coercion in the Maritime, Cyber, and Space Domains*, (RAND Corporation, 2017), pp.23-40、「複合的」で「全段階的」かつ「領域横断的」な抑止「エア・パワー研究」第5号、2019年などがある。

福島 康仁（ふくしま やすひと）

防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官（専門は宇宙政策）

慶應義塾大学総合政策学部卒業、同大学院政策・メディア研究科修士課程修了、同大学院政策・メディア研究科後期博士課程単位取得退学、博士（政策・メディア）。

日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター研究員補、防衛研究所研究員などを経て2019年から現職。

著書に『宇宙と安全保障－軍事利用の潮流とガバナンスの模索』千倉書房、2020年がある。

時藤 和夫（ときとう かずお）

航空研究センター客員研究員（元空将補）

防衛大学校卒業。信州大学（工学博士）

航空幕僚監部防衛部情報通信課長、統合幕僚監部指揮通信システム部長、第4航空団司令兼ねて松島基地司令、北部航空方面隊副司令官などを経て退官後、現職。

上高原 賢志（かみたかはら けんし）

航空研究センター運用理論研究室 研究員

国立八戸工業高等専門学校卒、豊橋技術科学大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士課程修了、修士（工学）。

航空自衛隊電子開発実験群、技術研究本部、航空幕僚監部技術第1課、飛行開発実験団、航空幕僚監部先進技術室、同技術課、航空開発実験集団司令部等を経て現職。

専門は計算機科学、人工知能（特にエキスパートシステム）。

研究テーマは軍事における人工知能技術の適用に関する研究、先進技術が軍事領域に与える効果に関する研究等。

長島 純（ながしま じゅん）

中曽根平和研究所研究顧問（元空将）

防衛大学校卒業。筑波大学大学院地域研究科修士課程。在ベルギー防衛駐在官（兼NATO連絡官）、航空幕僚監部防衛部防衛課防衛調整官、統合幕僚監部後方補給官（J4）、情報本部情報官（J2）、内閣審議官（危機管理兼ねて国家安全保障局（NSS））、航空教育集団司令部幕僚長、航空自衛隊幹部学校長などを歴任。退官後、現職。

著作に、「弾道ミサイルの拡散問題と東アジアの安全保障」『新防衛論集』、1994年11月号※平成6年度神谷不二賞受賞、「EUの安全保障戦略」『年報 戦略研究』、第2号、2005年1月、「NATO変革の深化と日本—日・NATO防衛協力へのインプリケーション」『海外事情』、第53巻第11号、2005年11月、「朝鮮半島の地政学的リスク—日米同盟へのインプリケーション—」『エア・パワー研究』第5号、2018年などがある。

山下 愛仁 (やました あいひと)

1 等空佐 航空幕僚監部首席法務官

駒澤大学法学部卒業、駒澤大学法学研究科博士後期課程満期退学、第 48 期指揮幕僚課程修了、第 57 期防衛研究所一般課程修了。第 22 高射隊長、航空幕僚監部法務官（企画・訴訟担当）、自衛隊静岡地方協力本部長、航空幕僚監部服務室長、航空研究センター研究企画管理室長、航空研究センター長などを経て現職。

駒澤大学非常勤講師（平成 23 年度、平成 24 年度）、慶應義塾大学総合政策学部非常勤講師（平成 29 年度～現在）。

著作に『国家安全保障の公法学』（信山社、2010 年）、『エア・パワー空と宇宙の戦略言論』共編、日本経済新聞出版社、2019 年、「スナイダーの抑止理論と冷戦期 NATO の抑止戦略」『エア・パワー研究』第 6 号、2019 年などがある。

鳥居 真由子 (とりい まゆこ)

2 等空佐 航空研究センター防衛戦略研究室 研究員

名古屋大学文学部卒業、防衛大学校総合安全保障研究科前期課程修了、第 61 期指揮幕僚課程修了。航空自衛隊幹部学校研究部、航空総隊司令部法務官付、航空幕僚監部首席法務官付法務官（法律支援）付などを経て現職。

専門は武力紛争法。

著作に「第 2 部 サイバー 第 5 章 サイバー空間での対応に関する国内法及び国際法」『エア・アンド・スペース・パワー研究』第 7 号別冊、2021 年がある。

山本 哲史 (やまもと さとし)

3 等空佐 航空研究センター防衛戦略研究室 研究員

神戸商船大学商船学部卒（学士（工学））、名古屋大学大学院国際開発研究科修士課程修了（修士（学術））、同大学院博士課程修了（博士（学術））。東京大学大学院総合文化研究科特任准教授、モンゴル国立大学法学部日本法教員（名古屋大学法学研究科から派遣）などを経て現職。

著作に「第 1 部 宇宙 第 6 章 国際宇宙法（宇宙に関する国際法）」『エア・アンド・スペース・パワー研究』第 7 号別冊、2021 年、「シェリングの抑止理論」『エア・パワー研究』第 6 号、2019 年、などがある。